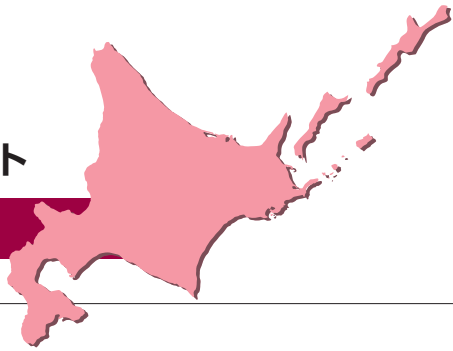
11月の道内景況　情報連絡員レポート

主要DI値に持ち直しの兆し

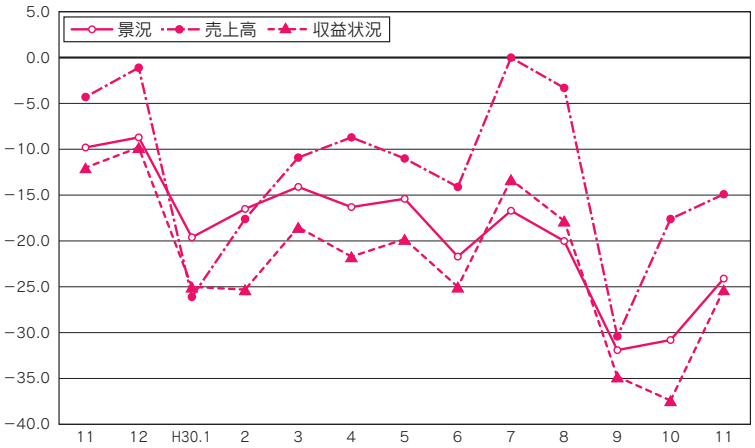


概　況

主要DI値の推移では、「景況」「売上高」「収益状況」の全てで改善し、持ち直しの兆しが見られた。

業種別の前月比較では、製造業では「収益状況」が大幅に改善したが、「売上高」では大きく悪化した。非製造業では「販売価格」「資金繰り」以外の全項目で改善したが、マイナス幅は依然大きい。

主要 DI 値の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	10 月	11 月	前月比	10 月	11 月	前月比	10 月	11 月	前月比
業界の景況	△30.8	△24.1	6.6 ↗	△28.1	△23.3	4.8 ↗	△32.2	△24.6	7.6 ↗
売　上　高	△17.6	△14.9	2.6 ↗	△9.4	△16.7	△7.3 ↘	△22.0	△14.0	8.0 ↗
収 益 状 況	△37.4	△25.3	12.1 ↗	△34.4	△23.3	11.0 ↗	△39.0	△26.3	12.7 ↗
販 売 価 格	5.5	5.7	0.3 ↗	3.1	6.7	3.5 ↗	6.8	5.3	△1.5 ↘
取 引 条 件	△7.7	△6.9	0.8 ↗	△3.1	△3.3	△0.2 ↘	△10.2	△8.8	1.4 ↗
資 金 繰 り	△13.2	△11.5	1.7 ↗	△18.8	△13.3	5.4 ↗	△10.2	△10.5	△0.4 ↘
雇 用 人 員	△15.4	△14.9	0.4 ↗	△15.6	△16.7	△1.0 ↘	△15.3	△14.0	1.2 ↗

（凡例）　30 以上　10 ～ 29　9 ～△ 10　△ 11 ～△ 29　△ 30 以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D･I値）をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

・小麦粉のほか、包装資材、段ボール等の諸資材、電気、ガス、空調等のエネルギーコスト、物流費、人件費等すべてが上昇し、大変苦しい経営状況が続いている。
（めん類／全道）
・11月に入って値下がりしてきたガソリン価格の影響で、消費マインドが更に好転するかと思われたが、伸びなかった。（飲料／全道）
・道南地域では、新幹線の札幌延伸工事に伴う吹付モルタルや生コン用の砂・砂利の需要が動き出したことにより前年より若干であるが業績が好転している。
骨材販売価格では、運搬距離が60～70キロメートルもある場合などもあり、価格の上昇が見られる。（窯業・土石製品製造業／全道・砂利）
・11月度の出荷数量、売上高については、道路・外構工事などの最盛期が続き、路盤用、アスファルト合材用と全体で前年対比増加した。
（窯業・土石製品製造業／札幌・砕石）
・11月の生コン出荷量は340千 m^3で、前月比は13.3%減、前年同月比は1.2%増となった。地域別には、前年同月を上回った分会（協組）は29分会（協組）中、14分会（協組）で前年（増加は15分会（協組））を下回った。前年同月と比較して、増加したのは後志、千歳地区、室蘭など。一方、減少したのは北見地方、苫小牧、札幌などであった。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・会員事業所の状況
新造船建造受注価格が低く、組合事業所の請負工事価格も低く影響が出ている。
公共事業関係の状況
鋼製橋梁、陸上工事（クレーン等）は受注が順調で先が明るい状況。
造船業界の状況
国内の造船所は当面仕事量は確保しているが韓国・中国の造船所は、国の支援を得て低船価で受注を行っているため日本の受注船価に影響が出ており、造船業界は厳しい状況が続いている。
（金属製品／室蘭）
・今月に入り、当組合員事業所に製紙メーカーから一斉に印刷用紙の20%値上げ要請があった。燃料費や物流費の高騰が理由とされている。今の景気情勢で原料として20%の値上げを印刷製品価格に反映することは難しいと思われる。
（金属機械工作／札幌）
・昨年度と比べると、食品製造業を除くすべての企業（機械金属製造）で操業度が落ち、売上・収益の減少となった。今後の動向を心配する声が多かった。
（金属機械工作／江別）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・物流コストの高騰や人件費アップがひびき利益減となった。小売りの価格攻勢も強まっているほか、納価の値下げ要求も強まっており、市況としてやや厳しさが続いている。（菓子／全道）
・今年の異常気象はいまだ収まらず、11 月もずっと高い気温の日が続いて生活しやすかった。野菜類は育ちすぎたものもあり、値段もぐっと下がって助かった。年末にかけてこの高気温・高水温がどのように影響してくるか心配。
（各種商品／小樽）
・11 月取扱高は、前年比 100%の状況。胆振東部地震から 2 ヶ月が経過し、被害の大きかったむかわ町の商店街は、倒壊した店舗の解体が終わったものの、新しい店舗の建設には至っていない。11 月は、ししゃも漁による観光客が多かったので街に活気があった。（各種商品／苫小牧）
・11 月の各組合員の状況について
報道等では、道内の街角景気は地震等の影響も後退し、景況感が改善しているといわれているが、釧路・根室地域においては前月同様、厳しい状況が続いている。その中で、11 月は、各業種において厳しい状況の中、前年並みの成績で終わることができたとの声が多かった。（各種商品／釧路）
・昨今のインバウンド需要を鑑み、東京のベンチャー企業「MAMORIO（マモリオ）」と連携し、IoT を活用した忘れ物の自動通知サービスを開始した。道内では初導入ということで、今後のクルーズ客船の街中埠頭（若松埠頭）接岸や 2020 年の東京五輪も見据え、ますます増加が見込まれる観光客の受入環境を強化した。
・函館市水産物地方卸売市場の 11 月における生鮮スルメイカ取扱量は、前年同月比 62%減の 38 トンにとどまり、漁が解禁された 6 月からの累計も前年同期比 48.7%減の 826 トンで、統計が残る 2005 年度以降、過去最低を更新した。又、スルメイカ漁においても日本の排他的経済水域（EEZ）で違法操業する外国船に漁場を追われる異常事態も発生し、資源量の減少に外国船が手痛い追い打ちをかけている格好にもなっている。（各種商品／函館）
・原油価格が 10 月中旬から続落し、市場価格も前月に比べ全油種で 1 ℓ当り 10 円～ 12 円の値下げ傾向となり、暖房用燃料の本格的な需要期に入り売上増の期待感もあったが、11 月中は平年と比べて気温が高く、例年に比べ販売量は低調となった。（燃料小売業／稚内）
・除雪機の点検・修理で忙しい時期。初雪が記録的に遅かったので心配したが、順調に売れている。自転車は来年度に向けた展示会のシーズンだが、発注の条件が厳しくなってきているので、廃業するお店も増えている。
（自転車・自動車／全道）
・鮭も予定より少なく、イクラ等も価格が下がらない。カニの入荷が今年はかなり厳しい。（各種食料品／札幌）
・ししゃもは昨年より増加したが、秋鮭・魚卵（生筋子）等の不漁により加工用原材料の不足と高騰が継続している。年末商戦にも多大な影響が出ている。地震の影響もまだあるのか、観光客が減少している。雇用については、年末商戦に合わせてアルバイト等は雇用増となっている。（鮮魚／釧路）
・中東情勢は依然予断を許さない状況が続いており、ここにきて、原油減産について協議が進むなど動きも活発になってきている状況。ついては、原油価格もこれまで同様乱高下し、元売仕切価格についても先行き不透明感が否めないなど、石油販売業者にとっては依然厳しい不安定な経営状況が続いている。
道内関係自治体等から、災害時における石油類燃料の供給協定締結について協力依頼があり、官公需受注について多少明るいきざしも見受けられる。しかしながら、景気が好転しない限り販売量の現状維持は見込めないところであり、まずは、徹底した合理化しかないと嘆く組合員もここにきて一層多くなってきている。（燃料／全道）
・震災後落ち込んでいた分を多少カバーできた。小売フェア等の開催も少ないが、開催時の成約もまあまあとのこと。（中古自動車／札幌）
・例年に比べ暖かく降雪がなく、冬物商品の動きが悪かった。（網走市／網走）
・道内中小・中堅企業の慢性的な人手不足の解消手段として、IT の導入による生産性の改善があるが、企業の根強い費用対効果への疑問や IT 人材の不足が主な理由で、なかなか踏み切れない。情報システムを導入していても老朽化したレガシーシステムの保守と運用に人材が浪費され、「守りの IT」になっていることも、企業体力を弱らせている。しかし、このところ生産性向上による企業力強化を目指す「攻めの IT」への投資が増え、道内の IT 企業へシステム開発の案件依頼が伸長している。クラウドサービスへの移行や改元に伴うシステム変更特需も後押しして、デジタルトランスファーの絶好のタイミング到来になりそうだ。
政府が進める働き方改革に伴う労働環境改善のために、オフィスのリニューアル投資や既存社員の待遇改善、派遣社員の採用による経費増など、収益を圧迫する要因が多く、特に札幌は、中小 IT 企業の高い離職率や道外流出、コールセンターの新規設立や増強で、技術系人材が引っ張りだこの状態となっている。働き方改革による労働時間の削減で浮いた残業代を社員に還元する動きが、当組合内に限らず道内の中小 IT 企業でも広がってきた。すでに、人手不足が一段と深刻な道内の中小 IT 企業では残業代の減少が社員の収入減につながらないように配慮して、給与や賞与に上乗せすることに取り組み始めている。（ソフトウェア／全道）
・11 月の十勝川温泉宿泊入込数は 27,238 人　昨年度比 322 人増、101%だった。震災後の速やか、かつ、効果的な取組により、11 月は前年を上回る入込数まで回復した。今後は、海外客回復への取組が重要。（旅館／音更）

非製造業（建設・運輸業）

・慢性的な職人不足で若年者の新規採用募集を行っているが集まらない状況。来春の新卒（高校）も採用は厳しい。（塗装工事／札幌）
・11 月の業況は、受注は好調であるが受注済工事の繁忙期で新たな受注を控えることを余儀なくされているのが現状であり、技術者及び技能者の補充が追い付かない。即戦力となる技術者がいない。業界の更なる環境改善して地位・魅力の向上を推し進めていかなければ電気工事業の担い手が増えないと思われる。（電気工事／全道）
・冬期を目前に、いよいよ仕事が追い込み最盛期を迎え、人手不足感と材料価格の高騰が業界を圧迫している。（左官工事／全道）
・組合員の業況
11 月末に 1 件の工事が発注され、今年度の予定されている工事は全て発注となった。雪が少なく気温も高い状況だが、目に見えない経費のかかる冬期施工なので、慎重な対応が必要かと思われる。また、一般住宅の新築、修繕も適度にあることから、年内はまずまずといったところ。
問題点
積雪時期の工事は経費のかかることから利益が出ないことが多いため、できることなら 11 月末までに工事が完成するように発注計画を立ててほしい。特に 12 月は日暮れも早く、交通量も増加することから事故の危険性が高まる。
地域の実情
毎年のことだが、灯油の価格や生活必需品、生鮮食品が高騰する時期となり消費者にとって厳しい状況となってきている。（管工事／名寄）
・ドライバー不足による配送単価が大手から上昇しているが、その上昇額が末端の配送員の収支・拘束時間を好転させていない。軽運送業界もトラック協会のような組織で業界の底上げを図る努力が必要。（一般貨物自動車運送／全道）
・農作物が減っていることで稼働も減っているようだ。ダンプについては高速道路工事も終了し動きは鈍いが、新幹線（トンネル）工事で一部は忙しくなっている。（一般貨物自動車運送／小樽）
・馬鈴薯・玉葱ともに 10 月と比較し出荷量は大幅に減少した。一部では道外産が市場に出回り市況が悪化していたのと、道内産玉葱の不出来による品質の低下が一因とみられている。一般カーゴについては先月同様例年並みの動きはあるものの、曜日により貨物の動向に偏りがみられた。域内輸送も前月同様に冬期間への準備に関わる商品の物通量は平年並みとなっている。
（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比 5.7%減少。乗務員数は前年同月比 6.8%減少。10 月分チケット取扱高は前年同月比 9.0%減少。（一般乗用旅客／旭川）